

MBバケットクラッシャー 簡易マニュアル

MBバケットクラッシャーの破碎能力、作業効率を低下させないよう以下の事に留意してください。

【取付時】

1. ベースマシーン 適正なバックホウの油圧・油量の設定必要油圧・油量に達していないと破碎能力が低下します。

 ※合流配管での過度な流量を流した場合は制御できずにモーターの破損等につながるため、注意が必要です。

 2. ドレイン配管の適正な接続
接続箇所を誤り、内圧がかかり破損させるケースがありますので注意が必要です。



【使用時】

1. 旋回しながらの破碎作業は、圧力がバックホウ側に取りられるため、十分な能力が発揮されず詰まりの原因になる場合がありますので、できる限り破碎作業時はバックホウ本体の操作は控えてください。

2. バケット内に破碎物を積み込み、バケットを初めに立ててペダルを踏み込み破碎しようとする、うまく駆動しない場合があります。これはバケット内に隙間がなく、負荷が最大にかかった状態の為言わば、機関車が坂道発進をする状態と同じなので、バケットに積み込み後、ペダルを踏み込み破碎作業を連続で行いながら、徐々にバケットを立てて作業をしてください。固い物の破碎の場合は顕著に表れます。刃の駆動は下のジョー刃は固定で動かず、対向する上のジョー刃が真下に上下し、押しつぶす形で破碎します。駆動上下幅は20mm程度です。

3. なるべく旋回角度を小さく取り破碎作業をしてください。
当然のことながら旋回角度が大きいくほど、旋回時間が大きくなり作業効率が落ちます。機械足場を考え、旋回角度をできる限り0度に近づけることが効率アップにつながります。

4. 積み込みサイズで一番効率が良いのは場合によりませんが、350mm程度です。理論上、バケット内に入れば割りますが、(2)の通り、隙間なく上刃を押えてしまった場合、クサビのような状態となりうまく駆動しない場合があります。

積み込み物が大きくても駆動時に破碎対象物と上の刃の隙間20mm以上あれば駆動し、フライホイールにより加速度がつき破碎します。破碎し始めても、途中でペダルを離した場合は状況は(2)の状態となってしまいます。

破碎を始めたら、積み込み物の破碎が終わるまでペダルを踏み続けるのがコツです。

 5. 打撃の禁止。2.3tの機械重量があるのでこれで破碎しようとするものに打撃を加えた場合の、バケットに加わる衝撃は非常に大きなものです。破損の原因の大半は打撃によるものです。

 6. 定期的な給脂。特に油圧モーターは高速回転しているため、1回2日の給脂をしてください。焼き付きの原因となります。

7. 破碎後の粒度は、ジョー刃や機械内部のトグルプレート、トグルシートの摩耗により大きくなってきます。粒度調整版を加えその補正はできますが、補正値が10mm前後となった場合はまず、トグルプレート、トグルシートの摩耗鋼による肉盛り溶接をすることを勧めます。定期的な肉盛り溶接がメンテナンス費の削減につながります。

MBバケットクラッシャーの破砕粒度調整



本体後部の保護カバーを取外します。



ボルトとセルフロック・ナットを取外します。



バケットクラッシャーと共に納品された専用スパナを使用して
コネクションロッドが自由になるまで管を緩めます。



排出口調整を小さくするためには調節シムを追加し、大きくする
ためには調節シムを取り除きます。



シムを差し込んだら、バネの上の赤い部分が、横にある指示器の
赤い部分と同じ位置にくるまで管を締め直します。安全ボルトが
ネジ棒上の対応する孔に入るように管を位置します。



排出口調整作業が完了したら、シムが外れないようにシム固定
ボルトがしっかりと挿入されていることを再確認します。